

特定非営利活動法人  
チャイルド・フアンド・  
ジャパン  
2020年度  
年次報告書

# Annual Report

# 2020

ChildFund  
Japan



# 理事長挨拶

新型コロナウイルスが世界中にまん延し、いくつかの国では子どもたちの外出禁止や自宅学習が続いています。チャイルド・ファンドの活動も、厳しい移動制限などにより大きく制約を受けました。それでも、現地職員と協力パートナーは、安全と健康に十分に気をつけて、子どもたちの権利を守る活動を支援国で行うことができました。皆さまのお支えは、何よりも心強いことでした。コロナ禍において子どもたちをサポートできたことに感謝を申し上げます。

2020年度は、次の3ヵ年計画を考える年度であり、組織の原点を顧み、コロナ禍とその後の社会での貢献を議論しました。計画実施にあたっては、チャイルド・ファンドの強みを生かして、常に希望をもって取り組んでまいります。これからもご支援よろしくお願ひ申し上げます。



特定非営利活動法人  
チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長  
ながやま のぶお  
長山 信夫

## 役員

2021年3月31日現在

理事長	長山 信夫	日本基督教団安藤記念教会牧師、同付属幼稚園園長
理事	福嶋 美佐子	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 支援者代表
理事	岡田 昭人	東京外国語大学教授
理事	小澤 淳一	青山学院初等部宗教主任
理事	鷲見 八重子	和洋女子大学名誉教授、国連NGO国内女性委員会委員長
理事	高橋 潤	日本基督教団銀座教会牧師
理事	原島 博	ルーテル学院大学教授
監事	向山 功	株式会社向山商会代表取締役社長
監事	脇屋 元	立花証券株式会社取締役

## 目次

理事長挨拶／役員	02	事業報告 ベトナム／緊急・復興支援事業	16
チャイルド・ファンド・ジャパン 事業概要	03	広報・啓発・提言事業	18
チャイルド・ファンド・ジャパンの1年	04	様々なご支援・ご参加方法	20
地域開発支援事業	06	チャイルド・ファンド・アライアンス	21
事業報告 フィリピン	08	数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年	22
事業報告 ネパール	10	2020年度会計報告	23
事業報告 スリランカ	14		

# チャイルド・ファンド・ ジャパン 事業概要

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。活動を通じ人と人が出会い、お互いに理解を深め、つながることを大切にしています。



## 1 地域開発支援事業

### スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長することができるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたちには、教育や保健・栄養など、一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指して、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的視野にたった支援を行います。2020年度は、フィリピン10カ所、ネパール1カ所、スリランカ2カ所で支援を行いました。

### 支援プロジェクト

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。2020年度はフィリピンで1件、ネパールで4件、ベトナムで1件のプロジェクトを実施しました。

## 2020年度の活動の概要

今年度は3か年の中期計画(2018年4月～2021年3月)の最終年次となりました。新型コロナウイルスのまん延により活動が制限されたものの、支援者の皆さまに支えられ、おおむね計画どおりに事業を進めることができました。1・2年次に引き続き、①視座の高い、②支える、③俊敏な、④責任をもつ、組織となることを目指し、以下の基本戦略4つを柱に活動を実施しています。

### 1. 「子ども」を中心にすえた活動の徹底

コロナ禍において、子どもたちの健康と教育を守ることを最優先に支援活動を行いました。

### 2. 地域開発支援事業モデルの再構築

ロジックモデル※を構築し、支援事業についての団体内の理解を深めるとともに、チャイルド・ファンド・アライアンスのメンバー

## 2 緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援します。2020年度は、新型コロナウイルス緊急支援、長野県での令和元年台風19号被災者支援の2件を実施しました。

## 3 広報・啓発・提言事業

国内でチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を広め、理解を深めていただくための事業です。子どもに対する暴力撤廃に向けた提言活動を行ったほか、団体の活動において子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、組織体制の強化を進めました。

団体から学び、スポンサーシップ・プログラムをシステムや業務面から見直しました。

### 3. 変革をもたらすコミュニケーションの強化

外部の専門家のサポートを得て、スポンサーシップ・プログラムの特色や意義をあらためて明確にし、ブランディングすることができました。

### 4. 組織力の強化

新型コロナウイルス対策をきっかけに、団体の情報管理システムの見直しやリモートワーク環境の整備をすることができました。

※支援活動が現地にどのような成果をもたらし、団体が目指す最終的なゴールにどのように結びつかを整理したもの

# チャイルド・ファンド・ジャパンの1年

## 1年を振り返って

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大が支援活動に大きく影響した1年でした。活動が制限される一方、子どもたちは感染のリスクや生活の危機にさらされました。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、感染予防対策、休校中の教育支援などに取り組むとともに、校舎建設などの従来の事業も、制限がある中、継続して取り組みました。また、東京事務所、現地事務所ともに在宅勤務が増える中、そのための環境整備を進めるとともに、動画による支援者への活動報告など、あらたな取り組みも行いました。



4月



### 新型コロナウイルス緊急支援スタート

2019年12月に世界で初めて確認された新型コロナウイルスは、徐々に感染を拡大し、チャイルド・ファンド・ジャパンやチャイルド・ファンド・アライアンスの支援する各国にも影響を及ぼしていきました。これを受けて、チャイルド・ファンド・ジャパンは、アライアンスとも連携し、新型コロナウイルス緊急支援をスタート。感染予防、食糧支援、教育支援などの支援をスタートさせました。

5月



### オンライン・動画報告会開催

学校などに訪問して行っていた活動報告会も、新型コロナウイルスの影響で実施が難しくなりました。このころより、新しい報告会の形として、オンラインでつないでお話をしたり、動画を作成して観てもらったりということが増えていきました。

7月



### フィリピンイガオ州(センター28\*)で自立を祝う式典を開催

1995年に支援活動を開始し、合計680名の子どもたちを支援してきたフィリピンイガオ州で、自立を祝う式典を行いました。新型コロナウイルスの影響により、式典は7月に延期され、通常よりも小規模なものとなりましたが、伝統的な踊りや子どもからの感謝のあいさつなどで、自立を祝いました。

※センター：フィリピンにおける現地の協力パートナーのこと

2020▶

4月

5月

6月

7月

8月

9月

4月

### 「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンが新聞に掲載

「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンの10年間にわたる取り組みが東京新聞で取り上げられました。大勢の区民の皆さまにご協力いただき、6つの校舎が完成したことが紹介されました。

4月



### 「新型コロナウイルスとペアレンティング」公開

保護者に向けて、コロナ禍の子どもとの向き合い方のヒントを示した「新型コロナウイルスとペアレンティング」を公開。チャイルド・ファンド・ジャパンも参加するGPeVAC(子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ)やWHO、ユニセフなどが共同で制作しました。

5月



### チャイルド・ファンド・アライアンス、56億円相当の新型コロナウイルス対応策を策定

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、チャイルド・ファンドは、アライアンス全体で56億円相当の対応策を策定しました。健康、食糧、子どもの保護、教育の4つの柱を設け、子どもたちの感染を防ぐとともに、子どもたちにおよぶ様々なリスクを軽減することを目的としました。

8月



### 「新型コロナウイルスから子どもたちを守りたい」著名人の方からのメッセージキャンペーンスタート

コロナ禍で厳しい環境下にある子どもたちにエールを送りたい！チャイルド・ファンド・ジャパンの支援活動に共感していただいた著名人の方々から、子どもたちへの応援メッセージをいただき、団体ホームページで公開しました。

11月



### 台風がフィリピンに上陸し、オーロラ州(センター44)とカタンドウアネス州(旧センター32)で被害

大型の台風22号がフィリピン北部のルソン島に上陸し、強風と大雨をもたらしました。支援地域であるオーロラ州と以前の支援地域であるカタンドウアネス州では洪水などが発生し、家屋や家庭菜園に大きな被害をおよぼしました。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、食糧支援、家屋の再建支援などを行いました。

12月



### 「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーン第11弾

書き損じハガキなどを活用して、ネパールの子どもの学ぶ環境を整えるキャンペーン第11弾を実施しました。皆さまからご協力いただいた結果、747,133円分のご寄付となりました。

1月

### フィリピン火山噴火

フィリピンの首都マニラ近郊の火山が噴火しました。支援地域のカビテ州(センター35)では、灰や泥が積もる被害が出ましたが、チャイルドやその家族に人的な被害はありませんでした。

2月



### ネパール「災害に強い学校づくりプロジェクト」校舎完成の竣工式開催

2019年より進めていたジャナタ校の校舎建設が完了し、完成を祝う竣工式を行いました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大に配慮しながらも、総勢約500人の参加となり、子どもたちの伝統的な踊りが披露されるなど、にぎやかな式典になりました。

2月



### すぎなみ協働プラザのウェブサイトにも団体インタビューが掲載

杉並区のNPOをサポートする「すぎなみ協働プラザ」からインタビューを受け、その内容が同協働プラザの公式サイトに掲載されました。現地の子どもの実態や支援活動に加えて、「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンの紹介も行いました。

10月

11月

12月

2021 ▶

1月

2月

3月

11月



### チャイルド・ファンド・アライアンスに12番目のメンバー団体「WeWorld」が加盟

子どもへの支援に取り組むネットワーク「チャイルド・ファンド・アライアンス」にイタリアを拠点とする団体「WeWorld」が加盟。団体数は12となり、支援国は70カ国以上、支援対象は2,300万人以上となりました。

1月



### J:COM東京「東京つながるNews」に職員が出演！

地元の企業や活動を応援するJ:COM東京のテレビ番組「つながるNews」。番組内の「つながるトーク」に広報担当職員が出演し、団体の活動や「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンについて紹介しました。

2月



### ネパール「災害に強い学校づくりプロジェクト」第3期スタート！

ジャナタ校の完成に引き続き、プロジェクトの第3期がスタート。2月に起工式が開催されました。第3期では、ラクタカリ小学校に2階建て鉄筋コンクリート造の地震に強い校舎を建設。完成は2022年の予定。

# 地域開発 支援事業

子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う「スポンサーシップ・プログラム」、貧困に起因する様々な問題において特定の開発課題に応える「支援プロジェクト」を実施しています。



## チャイルド・ファンド・ジャパンが取り組む6つの分野

<b>教育</b>	学用品の配布や学校設備の整備など、子どもたちが勉強を続けるための環境を整えます。	<b>子どもの保護</b>	「子どもの権利条約」に基づき、子どもの権利を守るための活動を行います。	<b>保健・栄養</b>	子どもたちが健全に成長できるよう、補食プログラムや健康診断などを行います。
<b>家族の生活改善</b>	子どもの親に職業訓練や収入向上プログラムを提供し、家族の生活改善を目指します。	<b>自己啓発</b>	積極的に生きる姿勢を育み、子どもたちの内面的な成長を支えます。	<b>住民主体の組織づくり</b>	地域が支援から自立することを目指し、住民組織を強化するプログラムを実施します。

## Sponsorship Program スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長できるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたち(チャイルド)には、教育や保健・栄養など一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指し、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的な視野にたった支援を行います。

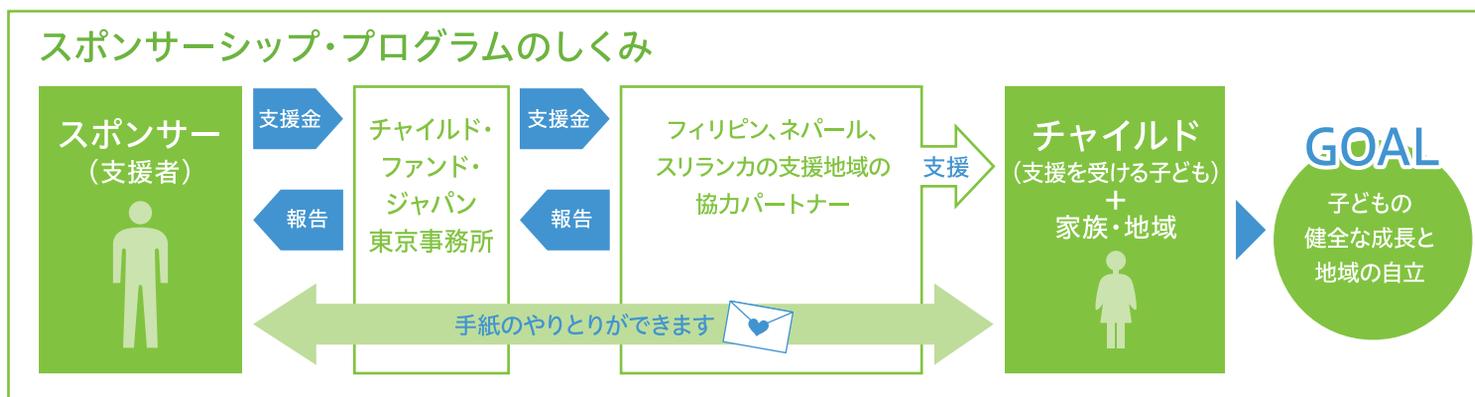
### スポンサーシップ・プログラムが 目指す2つのゴール

#### GOAL 1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。

#### GOAL 2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、小規模事業資金の融資などを行っています。



# Special Assistance Program

## 支援プロジェクトについて

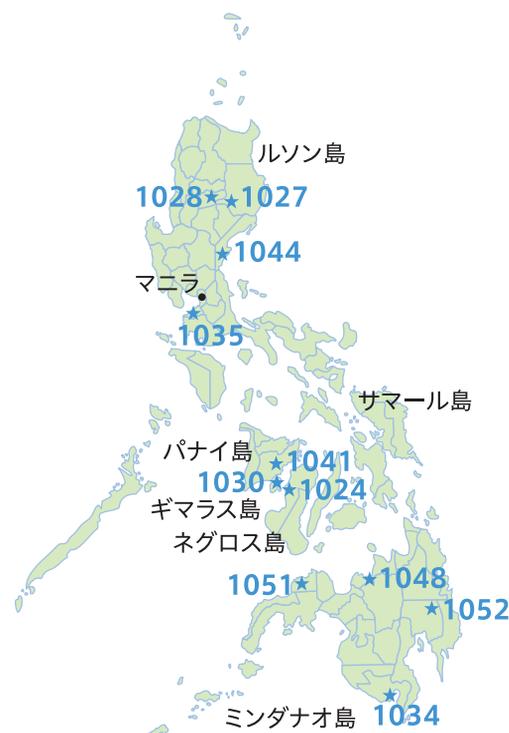
支援プロジェクトは、貧困に起因する様々な問題のうち特定の開発課題に応える事業です。学校環境整備、子どもの権利、児童労働、早期婚、保健、栄養、安全な水へのアクセス、収入向上、小規模ビジネス、協同組合事務所、少数民族など、その地域、環境において必要とされる課題に取り組んでいます。スポンサーシップ・プログラムと相互補完的に、子どもたちの健全な成長を支えています。

## 2020年度 スポンサーシップ・プログラム支援地域一覧

### フィリピン

プログラム番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
1024	中部ビサヤ諸島 西ネグロス州	297名	2019.6~2024.5	The Congregation of the Augustinian Missionaries of the Philippines
1027	北部ルソン イサベラ州	426名	2019.6~2024.5	Pamanang Panuluyan ng La Salette, Inc.
1028	北部ルソン イフガオ州	0名	2020年7月をもって 支援を終結	Saint Mary Magdalene Parish
1030	中部ビサヤ諸島 ギマラス州	407名	2019.6~2024.5	Community Partnership for Integral Child Development Center
1034	南部ミンダナオ 南コタバト州	442名	2019.6~2024.5	Notre Dame Business Resource Center Foundation, Inc. (NDBRCFI)
1035	北部ルソン カピテ州	373名	2016.6~2021.5	Magdalena Human Development Foundation
1041	中部ビサヤ諸島 イロイロ州	320名	2018.6~2023.5	Janiuy Calvario Community Center, Inc.
1044	北部ルソン オーロラ州	450名	2019.6~2024.5	St. Francis Center - Integrated Arera Development for Aurora, Inc.
1048	南部ミンダナオ 東ミサミス州	300名	2018.6~2025.5	Pedro Calungsod PEACE Center
1051	南部ミンダナオ 北サンボアンガ州	412名	2019.6~2024.5	Mindanao Resource Institute for Community Empowerment Inc. (MINRICE)
1052	南部ミンダナオ 北ダバオ州	200名	2016.6~2025.5	Davao Medical School Foundation, Institute of Primary Health Care

計 3,627名



### ネパール

プログラム番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
2061	シンドゥパル チョーク郡	531名	2016.5~2021.5	Tuki Association Sunkoshi

計 531名



### スリランカ

プログラム番号	事業地	チャイルド支援数*2	事業期間	協力パートナー
4049	プッタラム県	145名	通年	VOICE Area Federation Puttalam
4231	ヌワラエリヤ県	156名	通年	T-Field Child Development Federation

計 301名



\*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。 \*2.数字は2021年3月31日時点。

### 「センター」等の名称変更について

この度、支援活動をより分かりやすくお伝えするため、これまでの「センター」等の呼称を変更することといたしました。具体的には、センターの運営組織を「協力パートナー」、「センター番号」を「プログラム番号」などいたします。詳しくは団体ホームページ「最新ニュース」の「各種表記変更についてのお知らせ」をご覧ください。

各種表記変更についてのお知らせ



# PHILIPPINES

# フィリピン



2020年度  
支援チャイルド数

3,627

支援対象 フィリピンの各支援地域のチャイルド3,627名と  
その家族約15,000名(3,523世帯)

事業費 113,446,000円

事業期間 5年毎の長期(毎年6月～5月)

フィリピンでは、10カ所の支援地域で、現地の協力パートナー(センター)と協働し、スポンサーシップ・プログラムを通して3,627名のチャイルドを支援しました。新型コロナウイルスのまん延により、現地事務所、協力パートナーともに、在宅勤務を強いられるなど、支援活動にも大きな制限が生まれましたが、子どもたちや地域の感染予防対策、家庭学習支援など、コロナ禍の子どもたちを守る支援を行いました。

## Sponsorship Program

### スポンサーシップ・プログラム

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、子どもたちを感染から守るため、マスク、消毒剤などの感染予防グッズを配布。また、感染防止の正しい知識を広めるため、チャイルド、家族、地域にポスターを配布するなどして情報提供も行いました。

## チャイルドへの支援

スポンサーシップ・プログラムを通じた支援活動では、子どもたちが勉強を続けるための教育支援、健やかに成長するための保健・栄養に関わる支援、自己啓発支援などを行っています。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、子どもたちを感染の脅威から守るための支援や食糧支援などを行うとともに、長期的な対面授業休止に対して、子どもたちの教育を保障するための支援などを行いました。

### 感染予防対策や食糧支援

フィリピンでは、2020年3月中旬にロックダウンが実施され、その後、感染状況に合わせて、行動制限の緩和と強化が繰り返されました。



子どもたちも絵をかくなどして、地域の人々へ感染予防を呼び掛けました

また、ロックダウンによって職を失い、収入源が途絶えてしまった家庭もある中、これまでも推進してきた家庭菜園は、大きな役割を果たしました。収穫した野菜などを各家庭で食糧として消費することができただけでなく、それを販売することで、減少した収入を補うことができました。



家庭菜園の白菜を手入れする子ども

## 子どもたちの学ぶ権利を保障する

2020年3月より休校となった学校は、現在でも対面授業が再開されていません(2021年9月時点)。子どもたちは、学校から配布された課題に家庭で取り組む学習を進めています。

こうした状況に対し、現地では、自宅学習用の学用品や机を

支給するなど、家庭学習の環境整備を行いました。また、保護者が十分な教育を受けておらず、子どもたちの学習を十分に見ることができないケースも少なくないため、保護者に対する家庭学習のサポートも行いました。

## コロナ禍で重要性を増す子どもの保護

子どもたちをあらゆる暴力から守る「子どもの保護」は、コロナ禍において重要性を増しています。ロックダウンによる収入減や行動制限が、保護者のストレスを増大させており、フィリピン全体では、家庭内での暴力が増加傾向にあります。

しかし、チャイルド・ファンド・ジャパンの支援地域では、そうした暴力はほとんど発生していません。家庭菜園の支援などが家計を支えるとともに、子どもの保護やストレス緩和についての研修を実施したり、電話を通して子どもや家族へのカウンセリングを行ったりしたことがこうした成果につながりました。

## 台風22号による被害への支援も実施

2020年11月に上陸した台風22号により、支援地域であるオーロラ州(センター44)と以前の支援地域であるカタンドゥアネス州(旧センター32)では、家屋の倒壊などの大きな被害が発生しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、食糧支援、家屋再建のための資機材の提供、家庭菜園復旧のための種子の配布などを行いました。

# Special Assistance Program 1

## 支援プロジェクト 1

## みんなで守る子どもの権利プロジェクト

協力パートナー	フィリピンの各支援地域の協力パートナー(センター)
支援対象	9カ所の支援地域のチャイルド3,185名とその家族13,441名、チャイルド以外の小学生318名、中高生5,271名
事業期間	2020年4月1日～2021年3月31日
支援規模	10,106,000円

### 背景と事業目的

子どもの保護を推進し、子どもの権利が守られる地域を目指して、2014年よりプロジェクトを実施しています。2020年度は、新型コロナウイルスの感染から子どもたちを守り、健康に育つ権利や教育を受ける権利を保障することを目的として活動しました。

### 活動概要と成果

このプロジェクトでは、例年、各支援地域のチャイルドの代表が集まって、プロジェクトの活動内容を話し合ったりする「子ども会議」を開いています。しかし、厳しい移動制限や感染拡大防止の観点から、今年度は開催を見送りました。そして、コロナ禍における子どもたちの権利を守ることを最優先に、感染予防の物資配布や

学用品の配布、手洗い場の設置、カウンセリングなどを行い、子どもたちを感染や暴力から守る活動を行いました。



完成した手洗い場で手を洗い、感染予防をする子どもたち

# NEPAL

## ネパール

2020年度  
支援チャイルド数

531

支援対象 シンドウパルチョーク郡の公立学校7校のチャイルド531名、教師98名、  
学校運営委員会(SMC)・PTA148名  
事業費 34,061,000円  
事業期間 5年毎の長期(毎年4月～3月)

ネパールでは、スポンサーシップ・プログラムを通して、学校教育の質の向上や学校運営体制の強化を進めるとともに、2020年度は、新型コロナウイルス感染予防のための衛生用品の配布、ウイルスに対する正しい情報を広めるための啓発活動などを行いました。また、4つの支援プロジェクトを実施し、耐震性の高い校舎の建設や防災教育、先生の指導力向上のための研修などを行いました。

## Sponsorship Program

### スポンサーシップ・プログラム

ネパールでは、政府の政策などにより、妊産婦死亡率や乳幼児死亡率、小学校の入学率といった保健指標、教育指標が改善してきています。一方、中学校の入学率が66%にとどまるなど、依然として課題も多く残っています。女の子に対する教育が軽視される傾向にあることや、家庭の低収入、早期結婚、教育の質など、様々な問題が背景にあります。

スポンサーシップ・プログラムでは、子どもたちが学校に通い続け、質の高い教育を受けて未来の可能性を広げることができるよう、学用品の配布や学校運営の改善、先生の能力強化のための研修、PTAを含めた学校運営委員会の能力強化などの支援を行っています。

ネパールにおける新型コロナウイルスの感染は、首都カトマンズを中心に広がり、2020年3月にロックダウンが実施されました。その後、2020年10月、2021年5月に感染が急拡大し、状況に合わせて規制の強化と緩和が繰り返されました。現地スタッフが支援地域に訪問できない時期もありましたが、規制が緩和

された段階で支援地域に感染予防キットを届けるなど、子どもたちの感染を防ぐ支援を行いました。



正しい感染予防の仕方がかかれたポスターを読む子どもたち

## 支援内容と成果

### 子どもたちと学校の感染予防対策

新型コロナウイルスの感染予防対策として、子どもたちに衛生キット(石けん、手指消毒剤、マスクなど)を配布しました。また、2020年秋には、休校していた学校が再開される見通しとなったため、学校での感染予防体制にも力を入れ、噴霧タンクや消毒剤、非接触型体温計などの配布を行いました。

感染予防の正しい知識を広めるため、冊子、チラシなどの作成も行い、メンタルケアのための相談窓口についても記載して、子どもたちの心のケアにも配慮しました。

ネパールでは、学校の再開可否が地域ごとに検討されましたが、こうした支援によって、感染対策がされていると判断され、学校の再開につながりました。



配布されたマスクをつけながら、スポンサーへの手紙を書く子どもたち

### コロナ禍でも子どもたちが学校に通い続けるために

スポンサーシップ・プログラムでは、チャイルドが学校に通い続けることができるよう、様々な支援を行っています。学用品の配布といった支援だけでなく、学校と親が定期的に会合をもち、教育の必要性、成績や出席状況などを共有するようにしています。

今年度は新型コロナウイルスの影響により休校期間もありましたが、対象の7校での生徒の平均出席率は、スポンサーシップ・プログラム開始前の76%から84%に向上しています。



休校中は、先生が地域をまわり、家庭学習をサポートしました

### 先生の質の向上

先生に対する研修については、新型コロナウイルスの影響により一時実施を見合わせましたが、その後、感染対策をしながら再開しました。

研修では、一方的に指導するようなスタイルではなく、子どもに向き合った「子どもにやさしい教え方」や、紙やのりなどの身近なものでできる教材作りなどを扱いました。

その結果、教員の評価基準(教科書以外の教材を活用したか、教科ごとの成果評価をしたかなど)では、74%の教員が基準をクリアし、スポンサーシップ・プログラム開始前と比較して35%向上しました。



数学の授業で使えるゲーム教材について話し合う先生たち

### 子どもたちの声 レヌ

シンドウパルチョーク郡の中の小さな村に暮らすレヌ。新型コロナウイルスの影響で長期間学校が休校になり、友達に会えない期間が長く続きました。学校が再開されたとき、レヌ

は何よりも友達に会えることを喜びました。

「私も学校も、チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を受けることができ、とても嬉しいです。ノートや鉛筆、石けんやマスクなど、たくさんの学用品や衛生キットを受け取りました。おかげで勉強を続けることができます。ありがとうございます。」



## Special Assistance Program 1

## 支援プロジェクト 1

## 子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト(第2期)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO GMSP(Gramin Mahila Srijansil Pariwar) *女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校20校の生徒1,989名、教師171名、 学校運営委員会(SMC)・PTA役員359名
支援規模	26,240,000円 (フェリシモ「地球村の基金」[ラブアンドピースプロジェクト2019]からの助成金を含む)
事業期間	2020年4月1日～2021年3月31日

## 背景と事業目的

このプロジェクトは、学校や地域の人々とともに、教育を中心に子どもが健全に成長できる環境を整えることを目指しています。「生徒の学力と出席率の向上」「学校の環境整備」「先生や学校運営委員会の能力強化」について活動しています。

## 活動概要と成果

今年度は、新型コロナウイルスのまん延を受けて、本プロジェクトでも、衛生用品配布などの感染予防対策を行いました。

例年行っていた、学校や学校運営委員会への研修は、一時中

断を余儀なくされましたが、徐々に再開させることができました。また、学校のトイレ設置といったインフラの支援も行っています。

こうした支援の結果、支援校のうち10校では、成績が65%となり、目標の62%を超えました。出席率についても約90%、教員評価の結果も90%前後の達成率となりました。

さらに、学校運営委員会やPTAの活動によって、親の教育に対する姿勢の改善、子どもの権利についての理解の深まりが見られました。



学校運営委員会の活動について話し合う先生や保護者

## Special Assistance Program 2

## 支援プロジェクト 2

## シンドゥパルチョーク郡での「子どもの安全と保護のための子どもにやさしい学校」能力強化プロジェクト

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校9校の生徒1,379名、教師112名、 学校運営委員会(SMC)・PTA役員89名、地方行政官35名、地域住民 17,264名
支援規模	18,757,000円(チャイルド・ファンド・コリアからの助成金により実施)
事業期間	2020年5月1日～2022年12月31日

## 背景と事業目的

子どもたちが質の高い教育を受けること、子どもの安全と権利が守られることを目的として、教室や図書室などの教育環境の改善、教員の能力強化、子どもの権利に関する研修などを実施しました。

## 活動概要と成果

学校の教育環境の整備として、男女別のトイレや手洗い場の設置、教室の補修や校庭の遊具の設置、図書室の整備や本の提供を

行いました。また、子どもたちに学用品や制服を提供するとともに、感染予防のための衛生キットも配布しました。

学習面では、授業についていくことが難しい生徒に補習を行うとともに、先生に教授法の研修も提供し、生徒の成績が向上しました。

また、生徒の代表からなる「子どもクラブ」のメンバーや教員、PTA、自治体職員に、子どもの権利と保護についての研修を行いました。学校での「子どもの保護政策」の策定に取り組み、子どもの声を反映したものができあがりしました。



補習授業に参加する子どもたち

# Special Assistance Program 3

## 支援プロジェクト 3

### ■ シンドゥパルチョーク郡における 「被災学校の再建と防災能力強化」プロジェクト(2年次)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校4校 生徒603名、教師・学校運営委員会(SMC)42名、地方自治体職員1名
支援規模	66,405,000円(外務省NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2019年12月17日～2021年2月16日

がい者に配慮した施設となっています。

防災能力強化については、研修の一部が中止となったものの、学校安全計画やハザードマップの作成、避難訓練を実施することができました。対象地域では、近くに医療機関がなく、災害時に患者を搬送することが難しいため、生徒や教師に応急処置の仕方も指導しています。学校には、救急箱や毛布、懐中電灯等の非常備品も設置しました。

#### 背景と事業目的

2015年の大地震で被災した学校で、防災能力の強化、災害時および平時における子どもの保護についての能力強化などを目的に支援を行っています。

#### 活動概要と成果

昨年度より継続していたジャナタ校の校舎建設は、ロックダウンによって一時中断しましたが、2021年1月に無事完了しました。3階建て12教室の大きな校舎は、耐震性が高く、広い校庭や男女別トイレ、図書室も備え、子どもたちが安心して学べる学校となりました。車椅子用のスロープを設置するなど、子どもや障



図書室で読書を楽しむ子どもたち

# Special Assistance Program 4

## 支援プロジェクト 4

### ■ シンドゥパルチョーク郡における 「被災学校の再建と防災能力強化」プロジェクト(3年次)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校3校 生徒300名、教師・学校運営委員会(SMC)28名
支援規模	2,728,000円(外務省NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)
事業期間	2021年2月17日～2022年2月16日

の学校防災能力を強化していきます。

ネパールの新型コロナウイルスの感染状況は、2021年に入っても厳しい状況が続いていますが、建設作業は許可されており、おおむね予定通りに進んでいます。

#### 背景と事業目的

地震で被災した学校で、防災能力の強化、災害時および平時における子どもの保護についての能力強化などを目的に支援を行っています。

#### 活動概要と成果

3年次のプロジェクトでは、ラクタカリ校において耐震性の高い校舎(2階建て8教室)と手洗い場1カ所を建設します。また、同校を含む3校において、防災研修・避難訓練を実施し、学校運営委員会



ヒンドゥー教の慣習に則って、校舎の礎の部分に紙幣や花を埋め込みます

# SRILANKA スリランカ



2020年度  
支援チャイルド数

301

支援対象 プッターラム県、ヌワラエリヤ県のチャイルド301名と家族、  
地域住民35,719名  
事業費 13,051,000円  
事業期間 5年毎の長期(毎年7月～6月)

スリランカでは、0歳から24歳までの子どもや若者に対して、乳幼児期・学齢期・青少年期の3つの成長段階に応じて、栄養、教育・ライフスキル、職業訓練といった包括的な活動を行っています。2020年度は、新型コロナウイルスの感染予防対策を行うとともに、保護者への栄養改善の支援、飲料水へのアクセス改善、「地域での子どもの保護」を目指した啓発、障がいのある子どもへのリハビリ、地域防災などに取り組みました。

## Sponsorship Program

### スポンサーシップ・プログラム

スリランカでは、2020年秋まで新型コロナウイルスの感染拡大はある程度抑えられていましたが、10月に入りクラスターが発生しました。その後、感染は減少傾向にあったものの、2021年4月下旬からは変異株の影響もあり感染が急拡大し、医療体制がひっ迫するなど深刻な状況に陥っています。

こうした状況に対し、2020年度は、感染予防のための衛生キット(マスクや消毒剤など)の配布、経済的に困窮した家庭への食糧配布や現金支給、家庭学習支援など、コロナ禍の子どもたちの生活と教育を守る支援を行いました。また、感染状況を見ながら、以前から行ってきた研修などの支援も継続しています。

支援地域では、これまでの支援を通して、青少年グループがお互いの関係性を深め、地方行政や民間とも連携を強化し、地域を支える基盤となってきています。村の貯蓄グループの働きによって、無駄遣いが減り、その分を子どもの栄養改善に役立てるなど、地域が子どもたちを支えていく姿が見られるようになってきています。



感染予防のためのマスクを受け取る子ども

## 乳幼児期(0歳から5歳)

乳幼児期の子どもには、とりわけ、栄養のある食事を適切にとることや保健・衛生が重要になります。しかし、支援地域では、保護者が栄養や保健・衛生に関する十分な知識をもっていなかったり、栄養価の高い食事の作り方を知らなかったりする場合も少なくありません。

そこで、乳幼児期の子どもをもつ保護者らに対して、栄養や料理、保健・衛生に関する研修を行っています。研修では、知識の習得はもとより、得た知識をもとに実際に行動にうつす人々が増えるようなアプローチをとっています。研修を通して、保護者の栄養や保健・衛生に関する意識や行動は変容を見せてきています。

また、「地域での子どもの保護」についての啓発活動も進めたことで、子どもの保護に関する意識が向上し、子どもの保護に取り組む保護者や幼児施設、村の子育て委員会などが増えました。

さらに、ろ過機を設置し、地域住民の安全な水へのアクセスを改善させました。



責任ある子育てについて話し合う保護者達

## 学齢期(6歳から14歳)

学校に通う学齢期の子どもたちに対しては、学校に通い続け、質の高い教育を受けることができるよう支援を行っています。

特にこのコロナ禍においては、学校が休校となり家庭学習を余儀なくされた子どもたちに対してのサポートに力を入れました。具体的には、家庭学習キットの作成・配布を行うとともに、オンライン上に特設サイトを開設し、インターネット環境がある家庭で利用できるようにしました。

また、学校が再開された際には、学校に衛生備品を設置し、子どもたちが感染から守られ、安心して学べる学校環境づくりを支援しました。

教育の質の面では、教師に対して指導法の研修を行いました。これによって、特に、理解の遅れがちな子どもたちについて、成果が見られました。

また、外出自粛によるストレスや不安を軽減するための動画作成も行っています。



子どもたちが主体的に学習に取り組める方法を取り入れました

## 青少年期(15歳から24歳)

スリランカでは、十分な学歴を積んだ場合でも、思うように就職できない場合があるなど、青少年の就業が課題の一つになっています。

こうした課題に対し、オンラインでの求職ガイダンスやカウンセリングを実施したり、ジョブフェア(合同就職選考会)を開催したりするなど、チャイルドが自立し、実社会へと歩んでいけるように支援をしました。

また、職業訓練の場も提供し、訓練センターの感染予防対策を徹底し、チャイルドが安心して活用できるようにしました。さらに、希望の多い看護コースの設備を整え、多くのチャイルドが活用しました。

また、青少年グループの活動を支援し、子どもの保護・麻薬防止・家庭菜園・廃棄物管理・育苗と森林再生といった活動が地域で行われたほか、地域防災委員会を備えるコミュニティが6つ増えました。



地域の課題を特定するための活動を検討している青少年グループ

# VIETNAM ベトナム

## Special Assistance Program 1

### 支援プロジェクト 1

### 母子保健プロジェクト

協力パートナー ベトナムホアビン省(キムボイ県とタンラック県)の各人民委員会  
支援対象 ホアビン省の母子8,299名  
支援規模 742,000円  
(医療法人社団崎陽会ぼかぼか基金(日の出ヶ丘病院)からの助成金により実施)  
事業期間 2020年4月1日～2020年6月30日

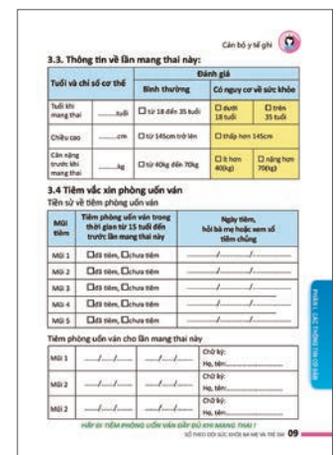
#### 背景と事業目的

ベトナムでは、国全体の保健指標が改善されてきている一方、貧困層や少数民族における指標は依然として悪く、格差が課題となっています。このプロジェクトでは、チャイルド・ファンド・ベトナムの活動をサポートし、母子手帳を活用した山岳地帯の地域母子保健サービスの質の向上、親の母子保健に関する知識・理解の向上を目指しています。

#### 活動概要と成果

ベトナム保健省、ホアビン省保健局と連携しながら、母子手帳を8,299部作成し、各ヘルスセンターを通じて妊婦の方々に配

布しました。センターの職員が手帳の使い方を説明するなどして、親が母子保健についての基礎的な知識をもち、それを実践できるように支援しました。



作成・配布した母子手帳

## 緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。チャイルド・ファンド・ジャパンは緊急・復興支援のためのガイドラインに沿って、被害の規模や支援体制の整備状況などを踏まえて支援を実施しています。

### ネパール新型コロナウイルス対応事業

### Nepal

協力パートナー TUKI(Tuki Association Sunkoshi)  
\*子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO  
GMSP(Gramin Mahila Srijansil Pariwar)  
\*女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO  
支援対象 シンドゥパルチョーク郡の公立学校27校とその生徒約3,200名、  
教師270名  
支援規模 3,883,000円  
事業期間 2020年6月1日～2020年9月30日

#### 背景と事業目的

ネパールの新型コロナウイルスの感染は、2020年秋、2021年春に大きな波を迎えました。特に、2020年秋は、予定されていた学校の再開と感染拡大とが重なり、学校における感染予防が重



新型コロナウイルスに関する解説本や衛生キットを受け取った子どもたち

要な課題となりました。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、スポンサーシップ・プログラムおよび支援プロジェクトを通して感染予防支援を行うとともに、緊急・復興支援事業としての支援も追加で行い、子どもたちの健康と教育を守る活動に力を入れました。

## 活動概要と成果

学校での感染防止を徹底するため、衛生用品（消毒剤、噴霧器、石けん、非接触型体温計など）を配布しました。また、先生と生徒に対しては、個人用の衛生キット（マスク、消毒剤、石けん、歯ブラシ、歯磨き粉）も配布しています。

さらに、ウイルスに関する知識や感染防止のための手引きを記載したイラスト入りの分かりやすい解説本を配布するなど、啓発活動にも努めました。

こうした支援の成果もあり、学校の再開以降、学校における感染は発生しておらず、子どもたちの安全な学習環境を支えることができました。



学校の再開前に教室の消毒を行いました

## 令和元年台風19号被災者支援

Nagano

協力パートナー	シャンティ国際ボランティア会、ながのこどもの城いきいきプロジェクト
支援対象	長野市の被災した小中学校3校の生徒853名
支援規模	1,099,000円(ワールドラグビー等からの寄付金により実施)
事業期間	2019年10月～2021年7月

## 背景と事業目的

2019年10月に発生した台風19号によって、長野県では千曲川の決壊など、大きな被害が発生しました。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、緊急支援として2019年に子どもの居場所づくりなどの支援活動を長野市で行いました。

被災した学校では、河川の氾濫による洪水被害などで、多くの備品が使えなくなり、学校における課外活動が一部行えなくなってしまいました。今年度はそうした活動の再開をサポートするとともに、これまでの支援結果の確認を行いました。

## 活動概要と成果

被災地域の学校（小学校1校、中学校2校）に対して、電子ピアノ、体育用品、耕運機（農業学習用）などの備品を提供し、子どもたちの教育活動を支えました。備品提供時にはすでに新型コロナウイルスの感染が広がっており、一般の人々の関心がそちらへと移っている中での支援となりました。学校からは、「台風被害を忘れないでいてくれた」と感謝の言葉をいただいています。

また、千曲川の決壊によって大きな被害のあった千曲市や、長野市の児童センターでは、当時、施設が床上浸水したために、多くの本を廃棄する事態となりました。チャイルド・ファンド・ジャパンはシャンティ国際ボランティア会と共同で蔵書の支援を行いました。今年度は、こうした支援について、現状を確認するなどのモニタリングを行いました。



提供した耕運機



シャンティ国際ボランティア会と共同で本を提供した長野市の児童センターの図書室

# 広報・啓発・ 提言事業

チャイルド・ファンド・ジャパンは「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」というビジョンの実現のため、広報・啓発・提言事業を重要な活動と位置付けています。一人ひとりの子どもの権利が尊重され、守られるよう、団体や活動に関する情報を広く発信します。また、チャイルド・ファンド・アライアンスと協働して、世界各国の政府、国連機関へのアドボカシー（政策提言）の活動も強化しています。



## 子どものセーフガードの取り組み

昨年度に引き続き「子どものセーフガード方針」に沿って組織内の体制や手続きの整備を進める中で、2020年度は東京事務所の制度の充実、海外事務所の制度の整備、各事務所間の連携、情報共有を進めました。

支援地域の子どもたちとともに活動を行っている海外事務所では、それぞれの国の現状に合った各国事務所ごとの「子どものセーフガード方針」と手続きを策定しました。

また、各国事務所に子どものセーフガードの担当責任者をおき、定期的に現地での取り組み状況を報告してもらうようにしました。東京事務所の担当責任者とのオンラインミーティングも定期的実施することとし、情報共有、意見交換の場を充実させています。

現地でもスタッフへ研修を実施するなどし、支援地域の子どもたちがあらゆる危害から守られ安心して活動に参加できるようにするための取り組みを強化しました。

一方、東京事務所では、これまでに骨格ができてきたセーフ



SNSでの個人情報の取り扱いについて研修を受けるフィリピンのスタッフ

ガード制度をより充実させていくために、次のような活動を行いました。

国際協力NGOセンター（JANIC）の「子どもと若者のセーフガード・ワーキング・グループ」の主催するウェビナーに参加し、国内外で子どもを支援する活動や子どもの権利条約の実施・普及等に携わる多くの団体や個人の方に、当団体のこれまでのセーフガードへの取り組みについて報告し共有する機会をもちました。

また、より多くの方々にセーフガードについて知っていたが、ご理解ご協力をいただくための施策として、団体の使用する封筒等にセーフガードについてのメッセージを掲載しました。

団体のホームページでの情報発信も強化しています。これまで、子どものセーフガード方針・行動規範の掲載はしていましたが、今年度は、セーフガードの必要性などの解説と合わせて、ひとつのコーナーとして設置しました。

今後もセーフガードの取り組みは継続、改善させていき、主に、「方針」を実施する上で大切な細かな手続き事項の充実にも取り組んでいく予定です。



### 子どものセーフガードについて

チャイルド・ファンド・ジャパンは、すべての活動において、子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、「子どものセーフガード」を推進しています。  
<https://www.childfund.or.jp/about/vision.html#scsg>

セーフガードについて記載した封筒や団体専用便箋

## ■ 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けたアドボカシー活動

持続可能な開発目標(SDGs)の目標16.2(子どもに対する暴力の撲滅)の達成に向けた日本国内でのアドボカシー活動として、2020年度も「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)日本フォーラム」の活動に参加しました。日本政府が目標16.2の達成に向けて作成する「国家行動計画(National Action Plan)」骨子案に盛り込む市民社会側の提案書づくりと、政府案の内容検討に引き続き参加しまし

た。最終的な政府案は2021年2月に最終化され、2021年中に行われる予定の国際会議の場で発表される予定です。

なお、「国家行動計画」は3年ごとの見直しが見込まれており、今回の政府案に盛り込まれなかった論点については、今後の政府との協議の場を通して市民社会側の意見を引き続き反映させる努力を続けていきます。

## ■ メディアへの掲載

今年度は、「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンの取り組みが東京新聞で取り上げられたほか、杉並区のNPOを支援する「すぎなみ協働プラザ」から取材を受け、ウェブサイトにインタビュー内容が掲載されました。

また、J:COM東京のテレビ番組「つながるNews」に広報担当職員が出演し、団体の活動や「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンについて紹介しました。



## ■ 2020年度に活動報告を行った学校や団体など



ご支援、ご協力くださる学校や団体の皆さまに、活動の成果をご報告しています。

今年度は、新型コロナウイルスのまん延により、対面での報告会は非常に少なくなりました。一方で、活動の成果や子どもたちの様子をまとめた動画を作成するなど、新しい形での報告を取り入れることができました。(以下の一覧には、動画報告を行った学校や団体も含まれています)

- ・ 青山学院初等部
  - ・ 青山学院高等部
  - ・ 恵泉女学園中学・高等学校
  - ・ バット博士記念ホーム
  - ・ パルシステム埼玉
  - ・ 明治学院東村山高等学校
- (50音順)

## ■ NGO・政府機関との連携・協働

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは他のNGOや関係機関と協力しています。

- ・ GII/IDI懇談会
- ・ JANIC(国際協力NGOセンター)
- ・ JCC-DRR(防災・減災日本CSOネットワーク)
- ・ JNNE(教育協力NGOネットワーク)
- ・ SDGs 市民社会ネットワーク
- ・ 子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)日本フォーラム

# 様々なご支援・ご参加方法

## スポンサーシップ・プログラムへの支援

職場全体で、支店で、部署で、チャイルドの成長を見守っていただいています。



## 基金によるプロジェクトへの支援

株式会社フェリシモの「地球村の基金」により、ネパールの学校の子どもと先生へのコロナ感染予防にご支援いただきました。



衛生キットを受け取った子ども

## 関係者みんなで支援

医療法人社団崎陽会ほかぽかぽか基金(日の出ヶ丘病院)により、ベトナムの母子保健プロジェクトへご支援いただきました。



支援により配布された母子手帳の使い方の指導を受ける妊婦

## 寄付つき自動販売機の設置で支援

自動販売機でお茶やジュースなどの商品をご購入いただくと、一定額が寄付されます。



## ポイント寄付で支援

ポイントの寄付を通して、団体の活動全体へご支援いただきました。



## 身近にあるもので支援

### ・ハガキ/切手を寄付

全国の皆さまより総額5,782,159円分のハガキや切手をご寄付いただきました。

\*新型コロナウイルスの影響により昨年度ご報告できなかった2019年度のご寄付総額は9,233,473円でした。

### ・古本/物品を寄付

古本または物品(ご家庭で眠っているお品物)を通して、それぞれ223,874円、137,091円ご寄付いただきました。

## ボランティア活動で支援

57名のボランティアの皆さまに、ハガキと切手の仕分けや集計、翻訳や発送作業をサポートいただきました。翻訳作業は在宅でもご協力いただいています。

## その他のご支援

社員の方の寄付額と同額程度が会社からも寄付されるマッチングギフト制度、社員の方からのご推薦や社内基金などを通してご支援いただきました。



OKI愛の100円募金



## 遺産・相続財産を寄付

ご自身の遺産やご家族からの相続財産を、「教育」という形で未来を担う子どもたちに贈ることができます。どうぞ事務局までご相談ください。

# チャイルド・ファンド・アライアンス

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもへの支援に取り組む12の団体からなる国際的なネットワークです。子どもたちが本来備え持つ可能性を実現できるよう、貧困やその原因となっている環境を改善するために、70ヵ国以上で2,300万人以上の子どもたち、家族とともに活動しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月にチャイルド・ファンド・アライアンスに加盟しました。

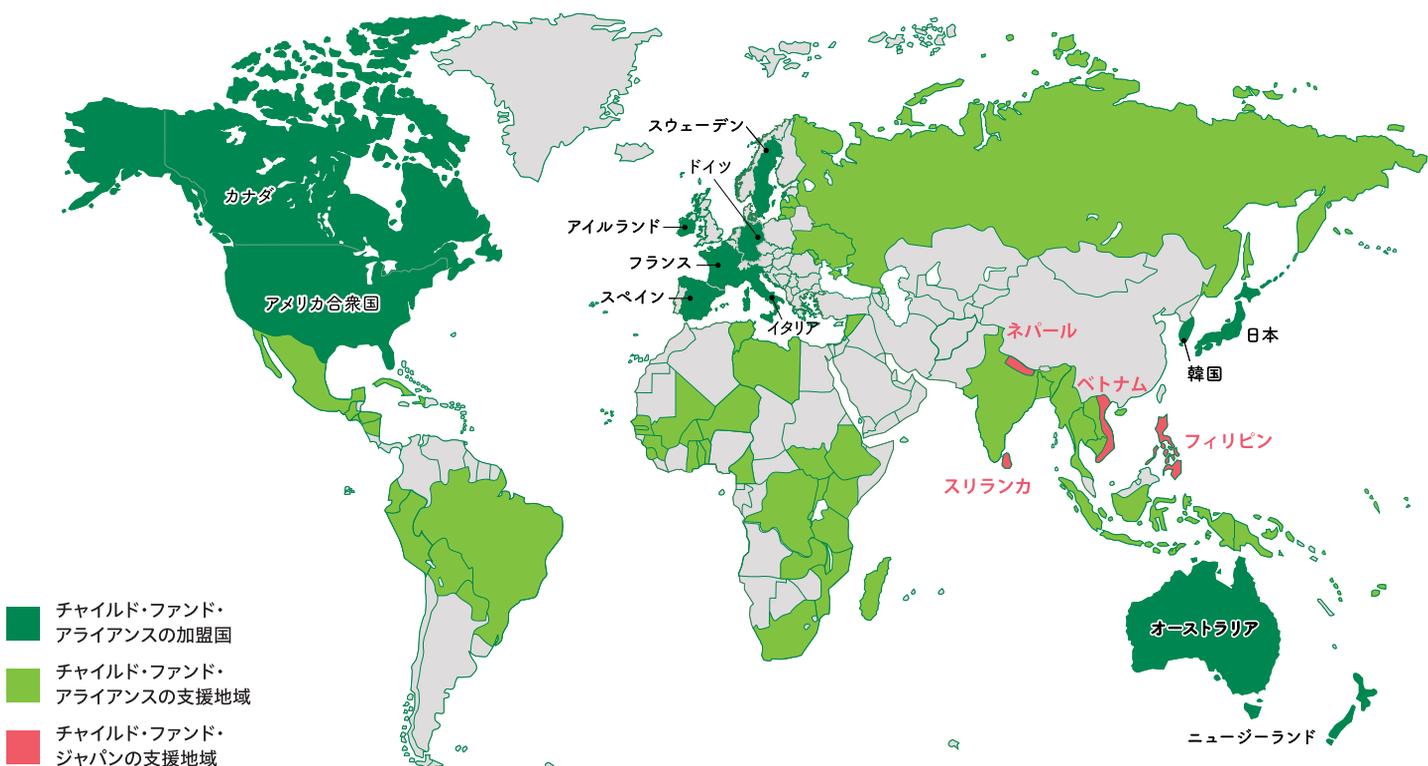


## 新型コロナウイルス対応でアライアンスが一丸となる

アライアンスは子どもへの暴力をなくすことを大目標に、5か年中期戦略(2020年7月~2025年6月)を練ってきました。その最中でコロナ禍になり、まずは新型コロナウイルス対応をグローバルに展開することになりました。前代未聞のウイルスに起因する社会問題を共通の課題と捉え、アライアンスが結束を強めて臨んだ一年でした。メンバー国はグローバルに寄付を募り、現地事務所(カントリー・オフィス)は予定していた活動をコロナ対策に変更して支援を行いました。各国の感染状況、ロックダウンの仕方も異なりますが、コロナ禍の子どもたちの権利を守る活動をすることができました。

コロナ対策に追われながら、中期戦略は3つの戦略に固まってきました。①グローバルなキャンペーンの実施、②一体として協働する組織文化の醸成、③政府・企業・財団からの助成金獲得能力の強化です。

前回の5か年中期戦略ではメンバー国を拡大することが戦略の一つにありましたが、イタリアの大手NGOであるWeWorldがアライアンスに加盟してメンバー国は12になりました。WeWorldはこれまでアライアンスの活動拠点がなかった中東諸国でも活動しており、アライアンスの活動地域を広げることに貢献してくれそうです。



# 数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年

スポンサー、マンスリー・サポーター、プロジェクト・サポーター、ハガキ協力者、古本・物品寄付協力者としてご支援くださる皆さまと、フィリピン、ネパール、スリランカのチャイルドの数、支援を離れたチャイルドの数、決算報告の数字をまとめました。

※数字はいずれも2021年3月31日時点

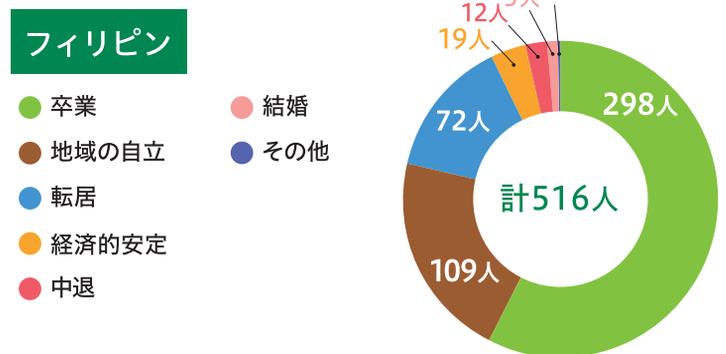
## 支援者数と支援チャイルド数



※複数ご支援くださっている方はそれぞれの支援方法でもカウントしています。



チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド(2020年度)



ネパール

●中退16人 ●転校5人 ●結婚1人  
計22人が支援を離れました。

スリランカ

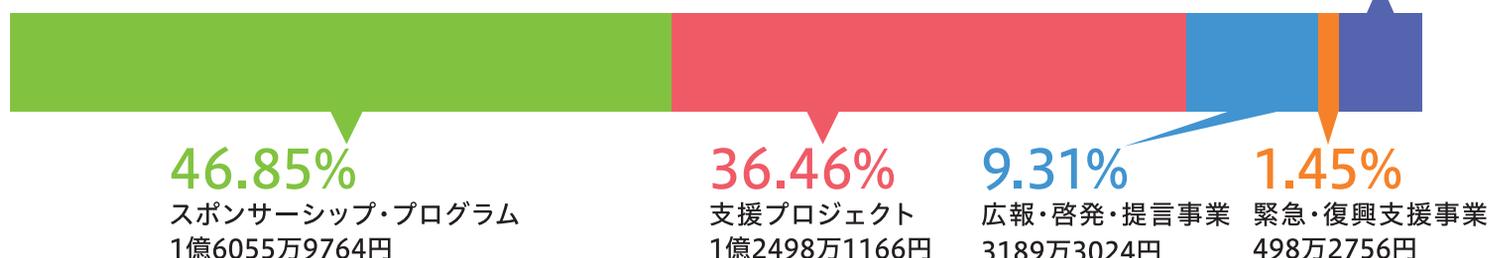
●転居7人 ●結婚3人 ●就業2人  
計12人が支援を離れました。

## 決算の概要

収入内訳 合計3億5864万4118円



支出内訳 合計3億4274万4119円

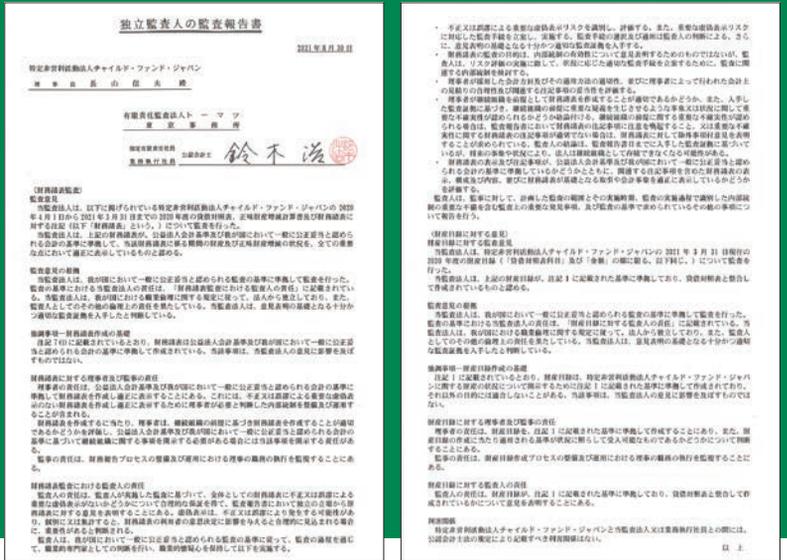


# 2020年度会計報告

## チャイルド・ファンド・ジャパンの会計監査について

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、監事による内部監査の実施とともに、監査法人による外部監査を受けています。ここに記載されたものは財務諸表から抜粋したものです。詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.childfund.or.jp/about/>



監査報告書 有限責任監査法人トーマツから提出された監査報告書です。

### 活動計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

科目	金額(単位:円)
<b>&lt;一般正味財産増減の部&gt;</b>	
<b>I 経常収益</b>	
受取会費等	304,000
受取寄附金	268,975,317
受取助成金等	89,172,089
その他収益	192,712
<b>経常収益計</b>	<b>358,644,118</b>
<b>II 経常費用</b>	
事業費	(1) 人件費 85,346,913
	(2) その他経費
	フィリピン支援事業費 96,792,956
	ネパール支援事業費 71,539,295
	スリランカ支援事業費 11,880,000
	その他海外支援事業費 738,220
	国内緊急支援事業費 1,057,400
	その他支援事業費 55,061,926
	<b>事業費計 322,416,710</b>
管理費	(1) 人件費 15,815,889
	(2) その他経費 4,511,520
	<b>管理費計 20,327,409</b>
<b>経常費用計</b>	<b>342,744,119</b>
当期一般正味財産増減額	15,899,999

### <指定正味財産増減の部>

受取寄附金	5,794,085
受取助成金	97,998,448
受取利息等	128,843
特定資産評価損益等	515,238
一般正味財産への振替額	-107,310,291
当期指定正味財産増減額	-2,873,677
前期繰越指定正味財産額	112,495,721
次期繰越指定正味財産額	109,622,044

### 貸借対照表

2021年 3月31日現在

科目	金額(単位:円)
<b>I 資産の部</b>	
1 流動資産	現金・預金 171,300,341
	未収金 6,047,500
	前払費用 1,063,550
	貯蔵品 63,300
	その他 3,784,120
	<b>流動資産合計 182,258,811</b>
2 固定資産	(1) 特定資産
	支援事業推進特定資産 213,000,000
	緊急援助特定資産 50,000,000
	退職給付引当特定資産 13,612,154
	ネパール学校再建防災強化事業特定資産 84,886,214
	海外地域開発事業特定資産 23,127,827
	風水害緊急支援事業特定資産 1,608,003
	<b>特定資産合計 386,234,198</b>
	(2) その他固定資産
	建物 61,541,996
	車両運搬具 15,203,608
	什器備品 1,260,016
	土地 16,140,000
	ソフトウエア 1
	ソフトウェア仮勘定 11,726,000
	その他 1,944
	<b>その他固定資産合計 105,873,565</b>
	<b>固定資産合計 492,107,763</b>
<b>資産合計</b>	<b>674,366,574</b>
<b>II 負債の部</b>	
1 流動負債	未払金 17,369,988
	預り金 598,923
	賞与引当金 3,515,144
2 固定負債	退職給付引当金 13,612,154
	<b>負債合計 35,096,209</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
1 指定正味財産	受取助成金 92,267,728
	受取寄附金 17,225,473
	受取利息等 128,843
2 一般正味財産	一般正味財産 529,648,321
	<b>正味財産合計 639,270,365</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>674,366,574</b>

## 2020年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



### Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

#### ビジョン 【目標】

すべての子どもに開かれた未来を約束する  
国際社会の形成

#### 愛のバトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変わり、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

#### ミッション 【使命】

生かし生かされる国際協力を通じて  
子どもの権利を守る

#### 子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

#### 特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

理事長 長山 信夫  
事務局長 武田 勝彦  
所在地 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
TEL 03-3399-8123  
FAX 03-3399-0730  
E-mail inquiry@childfund.or.jp  
URL <https://www.childfund.or.jp/>



特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは、社会的責任を果たし皆さまからの信頼に応えるため、「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークを取得しました。

